



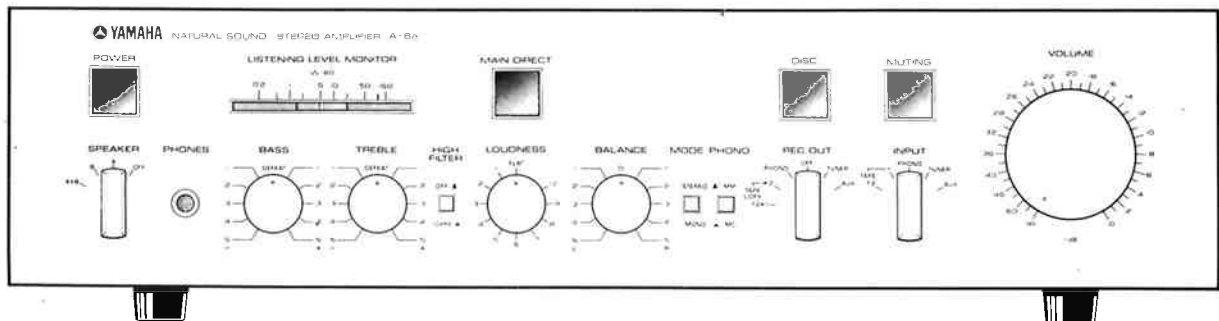
# YAMAHA

## NATURAL SOUND

### STEREO PRE-MAIN AMPLIFIER

# A-6a

## 取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオプリメインアンプ A-6a をお買い求めいただきまして  
まことにありがとうございました。

A-6a の優れた性能を十分に発揮させるとともに、長年支障なくご使用いただくために、  
この取扱説明書をぜひお読みくださいますようお願いいたします。

## ■特 長

- パワーアンプ部は、ファイナルパワー段に新開発歪打消回路 ZDR (ゼロディストーションルール) を設け、歪ゼロを達成。さらに、DC サーボアンプにより低域特性をコントロールしています。
- イコライザーアンプ部には、電源とアースのインピーダンスを切り離して音質や特性に影響を与えないピュアカレントサーボアンプ方式を採用しています。
- 電源部にはアンプの出力に応じて、入力電源電圧の通電時間をコントロールすることにより、出力電圧を一定にし、より効率的な電力の活用を可能にした、諸特性に優れた信頼性の高いヤマハ独自の X 電源を採用しています。
- イコライザー段は、ゲイン切り換え式ハイゲインイコライザーアンプで成り、入力感度も高く、あらゆる MC カートリッジがそのまま使用できます。また、MC と MM の切り換えはフロントパネル側で操作できます。
- セットした出力値でインジケーターが点灯し、リスニングレベルの確認や、スピーカーの保護に役立つリスニングレベルモニターを装備しています。
- 音量の基準を自分で決められるコンティニュアス・ラウドネスコントロールを採用。多種多様なラウドネス効果が得られ、音量と音場による自然な聴感補正が可能です。
- 再生中のプログラムに関係なく別のプログラムを録音したり、テープのダビングなどのダブルアクションが可能な REC OUT スイッチを装備。さらに、一時的に音量をさげる場合に便利な MUTING スイッチや、ワンタッチでシンプルな信号経路にできる MAIN DIRECT スイッチなど、機能面でも充実しています。

## ■目 次

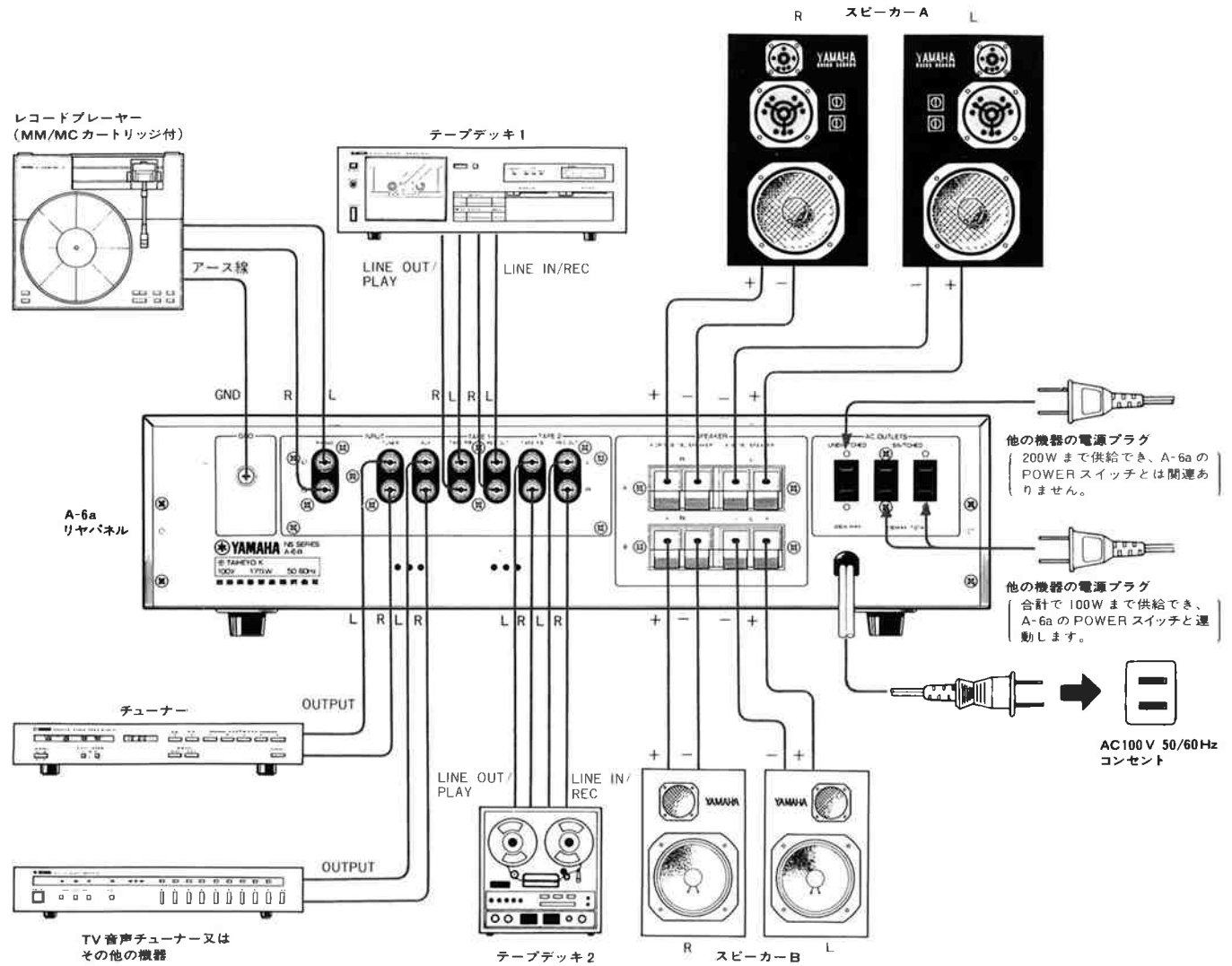
	ページ
特長	1
ご使用になる前に次のことにご注意ください	2
接続図	3
接続上のご注意	3
フロントパネルの名称と機能	5
特性グラフ	8
付属機能／付属品	9
ブロックダイヤグラム	10
参考仕様	11
故障と思われるときには	12
サービスのご依頼について	13



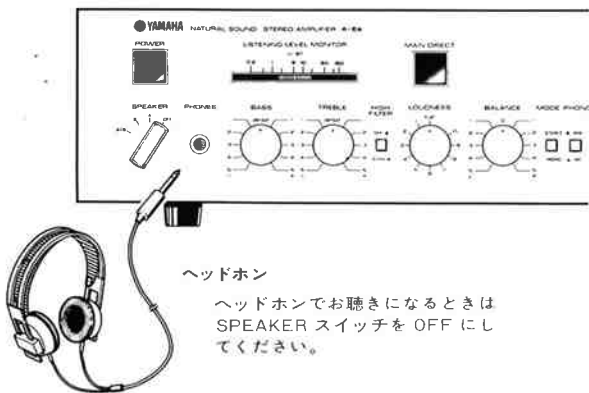
# 接続図 / 接続上のご注意

## ■基本接続図

※各セットの電源を切り、右チャンネル(R), 左チャンネル(L)を確認して接続してください。



## ●ヘッドホンの接続



## ■接続のまえに

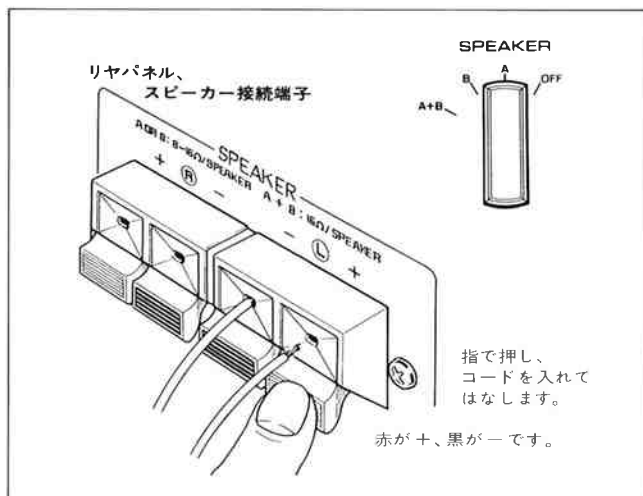
1. 本機の電源コードの近くにチューナーのAMアンテナ (ループアンテナ, バーンアンテナ等) が接近するようなセッティングは避けてください。ハムなどの雑音の原因になります。
2. 接続コード間での悪影響防止のため、各コードはできるだけ交わらないよう離してください。
3. 本機は放熱を妨げない場所を選んでセッティングしてください。
4. 上記の接続図を参照し、正しく接続してください。

### ■スピーカーシステムの接続

2組のスピーカーシステムが接続でき、フロントパネルのSPEAKERスイッチでA, B単独にもA+Bで2組同時に使うこともできます。

- ◆ただし、定格入力（入力感度値）時にフルパワー近くで長時間にわたってご使用になる場合は、次のように使用スピーカーシステムのインピーダンスにご注意ください。
- ◆A, B単独使用の場合は、スピーカーのインピーダンスが4Ω~16Ωのものを、2組同時使用の場合は各インピーダンスが8Ω以上のものを使用してください。

1. 向かって右側のスピーカーシステムとSPEAKER ②端子を、左側のスピーカーシステムと①端子を、それぞれ極性（+, -）を確認し接続してください。極性をまちがえると低音のそこなわれた不自然な再生音になってしまいます。
2. 接続は図のように端子下のレバーを押し、スピーカーコードの芯線部分をさし込み、指を離すとコードがロックされます。赤い端子が+で、黒が-です。確実に接続してください。
3. もう一方のSPEAKER端子にも、同様にしてもう一組のスピーカーシステムが接続できます。



### ■レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードのL, Rを確認しPHONO端子に接続します。アース線がある場合はアース線をGND端子に接続してください。

なお、アース線を接続してハムなどの雑音が出るようでしたら、アース線は接続しないでください。

### ■チューナーの接続

チューナーの出力端子と本機のTUNER端子の④, ⑤を確認して接続コードで接続してください。

### ■テープデッキの接続

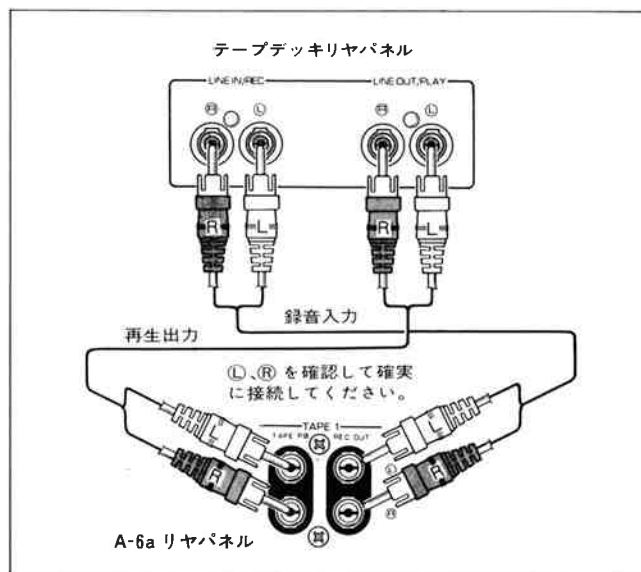
⑥, ⑦を確認して次の端子間を接続してください。

アンプ側

テープデッキ側

TAPE PB(再生入力)端子 ↔ LINE OUT(再生出力)端子  
REC OUT(録音出力)端子 ↔ LINE IN(録音入力)端子

- ◆TAPE 1端子, TAPE 2端子で2台のテープデッキが接続できます。



### ■AUX端子への接続

AUX端子は補助入力端子として使用します。FM/AMチューナーやテレビチューナーをはじめ、8トラックテーププレーヤーなどが接続できます。

それぞれの端子の⑧, ⑨を確認して接続してください。

### ■AC OUTLETS (予備電源コンセント)への接続

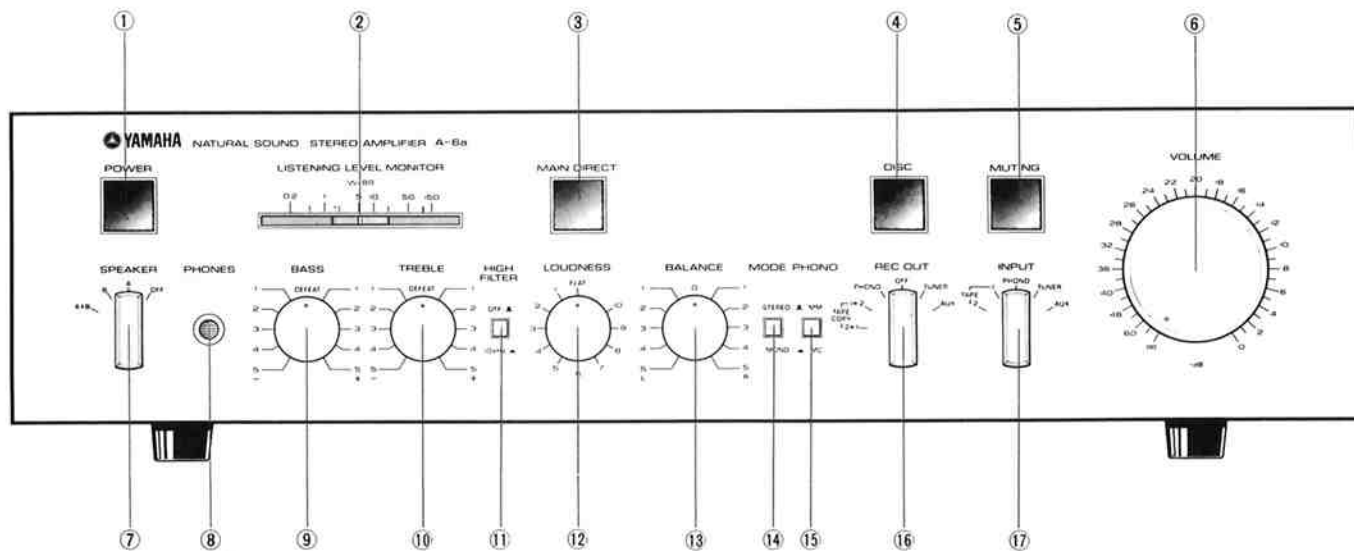
1. 消費電力が100W以下の機器は、本機リヤパネルのAC OUTLETSの「SWITCHED」側コンセントに接続し、POWERスイッチをONにしておくと、本機のPOWERスイッチと連動させて電源をON, OFFすることができます。

- ◆「SWITCHED」のコンセントは、2つの合計で100Wまでです。接続する機器の消費電力を確認し、必ず100W以下でご使用ください。

2. 「UNSWITCHED」側コンセントは消費電力200W以下の機器が接続でき、本機のPOWERスイッチのON, OFFとは関係ありません。

# フロントパネルの名称と機能

## ■フロントパネル



### ①POWER (電源スイッチ)

スイッチを押すと電源が入り、スイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すと電源が切れランプが消えます。

●電源を入れるときは、不用意に大きな音が出ないように必ずVOLUMEを最小(∞)にしておくようにしてください。

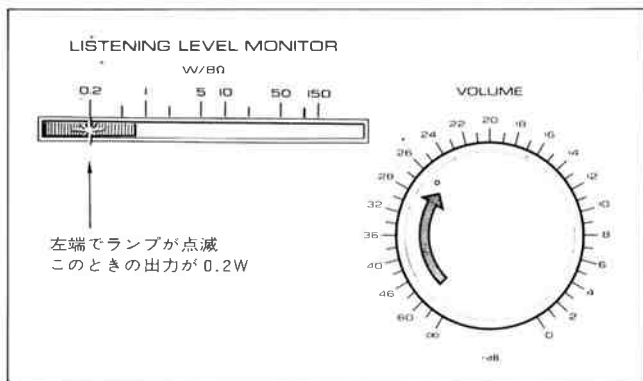
●電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働いているため音は出ません。

### ②LISTENING LEVEL MONITOR

(リスニングレベルモニター)

つまみ中央にLEDが点滅し、リスニングレベル(出力)のピークをワット(W/8Ω)数で知ることができます。ただし、出力のピークはLch(左)とRch(右)で出力の大きい方を示します。

例えば、つまみ中央を"1"に合わせてVOLUMEで音量をあげていき、中央のLEDが点滅し始めたときのLchあるいはRchの出力が約1Wです。逆に、音量をあげておき、つまみを右に移動させると、そのときの出力がわかります。



VOLUMEと合わせて、出力レベルの監視や設定にお役立てください。

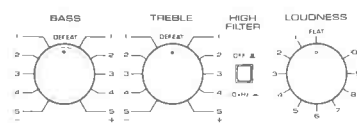
●スピーカーシステムの最大許容入力値につまみをセットし、LEDが時々点滅する程度でご使用になりますと、スピーカーシステムの保護になります。

### ③MAIN DIRECT (メインダイレクトスイッチ)

スイッチを押すと内部にランプが点灯し、信号経路から次の4つの機能

- BASS (低音調整つまみ)
- TREBLE (高音調整つまみ)
- HIGH FILTER (ハイフィルタースイッチ)
- LOUDNESS (ラウドネス調整つまみ)

パスされる機能



がパスされ、信号経路はイコライザーアンプとDCパワーアンプのみの極めてシンプルな回路構成となり、よりフラットでハイクオリティな再生音を得ることができます。つまり、上記の各機能がどの状態にあっても、ワンタッチで特性をフラットにし、シンプルな信号経路にすることができるわけです。逆に、このスイッチが点灯した状態では上記の機能は動作しませんが、もう一度押すとランプが消え、各機能は動作します。

#### ④DISC (ディスクスイッチ)

スイッチを押すと内部にランプが点灯し、INPUTスイッチの位置に関係なく、つまりどのプログラムソースよりも優先してレコード (DISC) 再生に切り換わります。

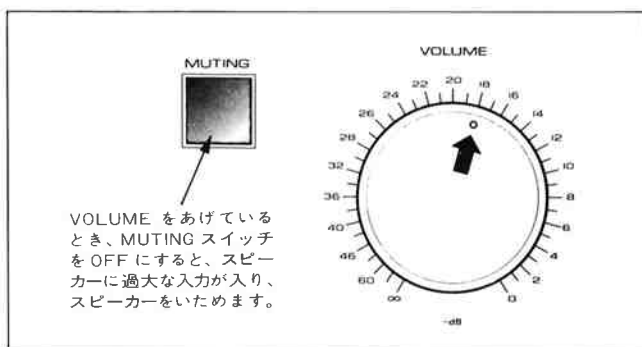
すなわち、ワンタッチで本機をDISC専用アンプにすることができわけです。さらに、MAIN DIRECTスイッチと併用しますと、よりハイクォリティなレコード再生ができます。もう一度押すとランプが消えもとの状態に戻ります。

#### ⑤MUTING (ミュートスイッチ)

スイッチを押すと内部にランプが点灯し、VOLUMEを回さずにアンプのゲイン (利得) を20dB (1/10) さげることができます。さらにもう一度押すとランプが消えもとの状態に戻ります。

ステレオをお聴きのとき電話がかかってきた場合など、一時的に音量をさげる場合に便利です。また、小音量で聴く場合には、MUTINGスイッチで音量をさげておくと、VOLUMEつまみで音量調整をする際細かい調整ができます。

◆MUTINGスイッチで音量をさげVOLUMEで音量をあげているとき、MUTINGスイッチをOFFにしますと、スピーカーに過大な入力が入り、スピーカーを破損することがありますのでご注意ください。



#### ⑥VOLUME (音量調整つまみ)

全体の音量を調整するつまみで、右に回すほど音量が大きくなります。

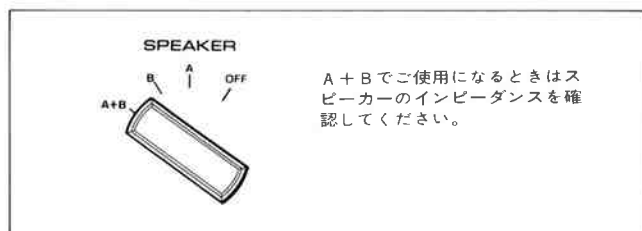
◆POWERスイッチをはじめ、各スイッチをON, OFFしたり切り換えるときは、必ず音量を最小にして行なってください。また、レコードに針先を降ろすときも音量を最小にして行なうようにしてください。

#### ⑦SPEAKER (スピーカースイッチ)

リヤパネルのSPEAKER端子A, Bに接続されたスピーカーシステムを選びます。A, B単独にも、A+Bで2組同時に聴くこともできます。

ヘッドホンでお聴きになる場合は"OFF"にしてください。"OFF"にしますと、スピーカーからの音は出なくなります。

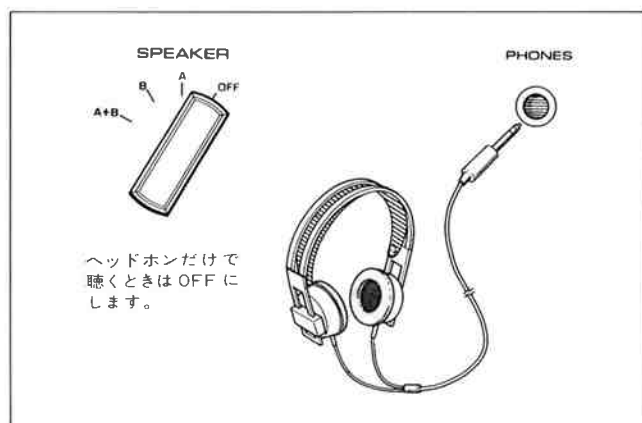
◆A+Bで2組同時使用のときは、各スピーカーのインピーダンスが16Ω以上のものをご使用ください。



#### ⑧PHONES (ヘッドホンジャック)

ヘッドホンのプラグを差し込みます。ヘッドホンだけで聴きになる場合は、SPEAKERスイッチを"OFF"にします。夜間などは、隣近所に迷惑をかけないためにもヘッドホンのご使用をお勧めします。

◆ヘッドホンはL, Rを確認して正しくお使いください。



#### ⑨BASS (低音調整つまみ)

低音域の特性を調整します。"DEFEAT"位置ではフラットな特性になり、右に回すほど低音が強調され、左に回すほど減衰されます。

8ページの特性グラフを参照してください。

#### ⑩TREBLE (高音調整つまみ)

高音域の特性を調整します。"DEFEAT"位置でフラットな特性になり、右に回すほど高音が強調され、左に回すほど減衰されます。

8ページの特性グラフを参照してください。

⑪HIGH FILTER (ハイフィルタースイッチ)

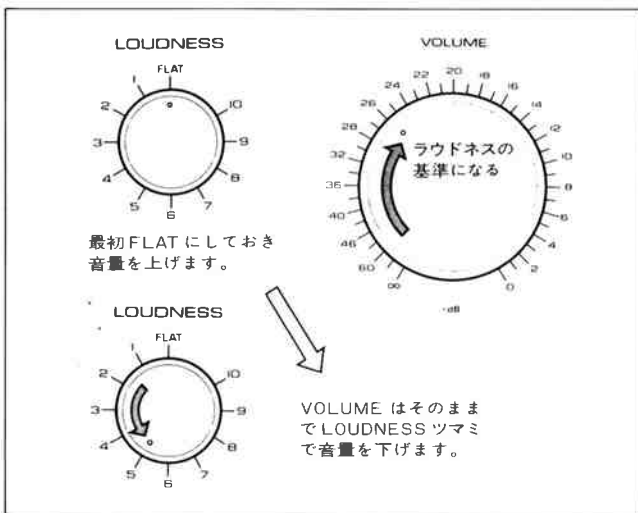
スイッチを押すと(▲)、高域でのノイズ(レコードのスクラッチノイズなど)を軽減することができます。カットオフ周波数は10kHz、遮断特性は12dB/octで、10kHz以上の高域ノイズをカットしますので必要な信号への影響はほとんどありません。もう一度押すと(■)OFFになります。

⑫LOUDNESS (ラウドネス調整ツマミ)

人間の聴覚には音量が小さくなるにつれて低音と高音が聞こえにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスです。一般のラウドネスは、ボリュームの回転角度により低域と高域が強調されるため、スピーカーの能率や音量、部屋の状態によっては不自然な補正となる場合がありますが、本機では、コンティニューアラウドネス方式を採用し、音量の基準を自分で決められるため、自分の聴く音場と音量に従って多種多様なラウドネス効果を得ることができます。特性は8ページのグラフのようになっています。

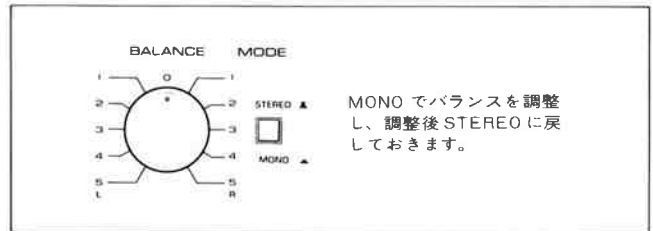
▼操作方法

1. LOUDNESS ツマミを"FLAT"にしておき、低域から高域までのバランスが最適になるまでVOLUMEで音量をあげます。(この状態がラウドネスの基準になります。)
2. LOUDNESS ツマミを左に回していくと音量がさがりますので、ご自分のお聴きになる音量までさげていきます。それに従いラウドネス効果は強調されていき、お聴きになる音量に応じたラウドネス補正ができたこととなります。



⑬BALANCE (バランス調整ツマミ)

左右のスピーカーの音量バランスを調整します。ツマミを右に回すと左の音が小さくなり、左に回すと右の音が小さくなります。バランス調整は、MODEスイッチを"MONO(▲)"にして、リスニングポジションで左右のスピーカーからの音が中央に聞こえるようにします。調整後はMODEスイッチを"STEREO(■)"に戻しておきます。



⑭MODE (モードスイッチ)

プログラムソースのモードを切り換えます。"STEREO(■)"で通常のステレオ再生になり、"MONO(▲)"ではモノラル再生となります。

⑮PHONO (フォノ切り換えスイッチ)

MM型(IM型, MI型)カートリッジと、MC型カートリッジの切り換えスイッチです。ご使用になるカートリッジに合わせて切り換えてください。MM型カートリッジなど出力電圧が比較的大きな(2.5mV程度)ものはMM(■)にして、MC型カートリッジなど出力電圧が比較的小さい(0.16mV程度)ものはMC(▲)にしてご使用ください。

- ◆カートリッジの出力電圧は機種により異なりますのでカートリッジの取扱説明書をご参照ください。
- ◆トーンアームにMM型等あるいは高出力MC型カートリッジを取り付けて再生しているとき、PHONOスイッチをMC(▲)にすると急激な音量変化により、スピーカーに悪影響を与えますのでご注意ください。

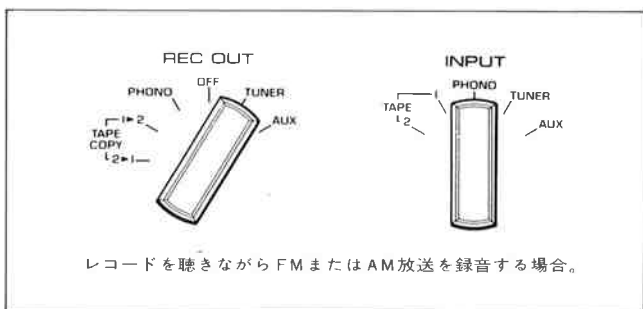
⑯REC OUT (録音出力切り換えスイッチ)

テープデッキに録音するためのプログラムソースを選択するスイッチです。INPUTスイッチに関係なくソースを選んで録音することができます。例えば、レコードを聴きながらREC OUTスイッチを"TUNER"にしてFM放送を録音するというダブルアクションや、テープダビングなどができます。"OFF"の位置では録音できません。



●ダブルアクションの主な操作例

INPUT スイッチ	REC OUT スイッチ	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聴きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながらレコードを録音できます。



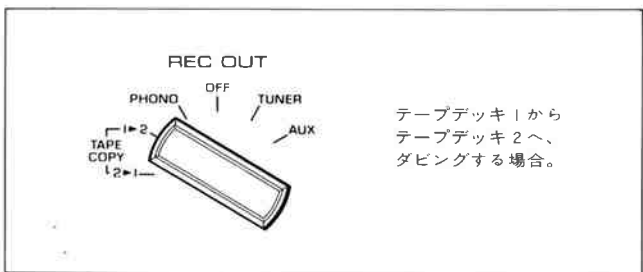
●テープのダビング(複写)について

テープデッキが2台ありますとテープからテープへ、ダビングすることができます。

リヤパネルのTAPE 1端子に接続しているテープデッキ1から、TAPE 2端子に接続しているテープデッキ2へ、ダビングする場合は、

1. REC OUTスイッチを"TAPE COPY1▶2"にセットします。
2. テープデッキ1を再生状態にし、テープデッキ2で録音します。

テープデッキ2からテープデッキ1へのダビングも同様にして、REC OUTスイッチを"TAPE COPY 2▶1"にし、上記2を逆の状態にするとできます。

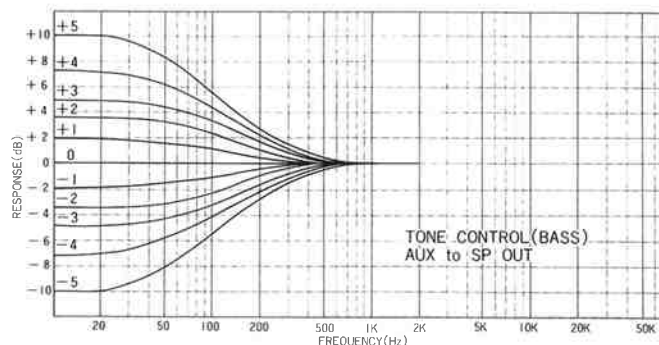


⑰INPUT (入力切り換えスイッチ)

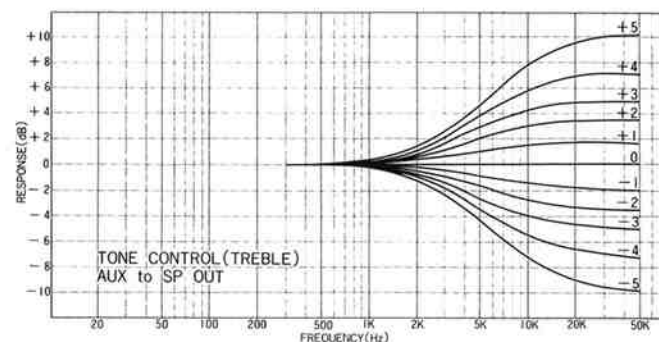
リヤパネルのINPUT及びTAPE端子に接続しているプログラムソースを選択します。お聴きになりたいソースに合わせてスイッチを切り換えてください。

■特性グラフ

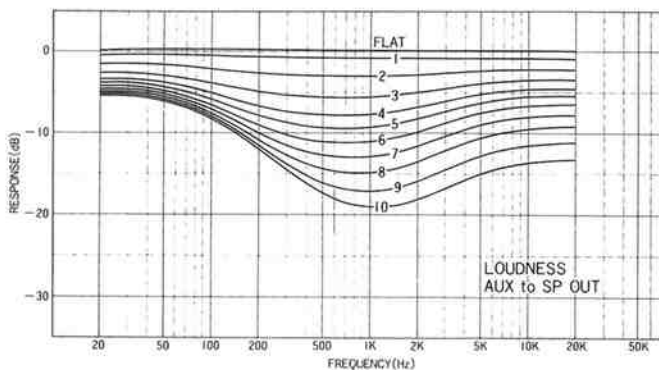
●BASSコントロール特性



●TREBLEコントロール特性



●LOUDNESSコントロール特性



# 付属機能／付属品

## ■付属機能

### ●MAIN DIRECTスイッチ

このスイッチを押すと本機の信号経路は下のブロックダイヤグラムのように極めてシンプルになります。

PHONO 端子からの信号経路は2アンプ構成となり、音質劣下の原因となりやすいトーンコントロールアンプを完全にパスし、またスイッチによる音質劣下を避るため、その数も必要最少限にとどめています。

さらに、TUNERやTAPEからの入力信号は、完全DC構成のパワーアンプと、最少限のスイッチ数個を通るだけの経路となります。

このスイッチを押すことにより、プログラムソースにいかにか忠実でクォリティの高い再生が可能かおわかりいただけるとと思います。トーンコントロールの必要のない場合にはBASS, TREBLEを“DEFEAT”にするだけでなく、このスイッチを大いに活用してください。

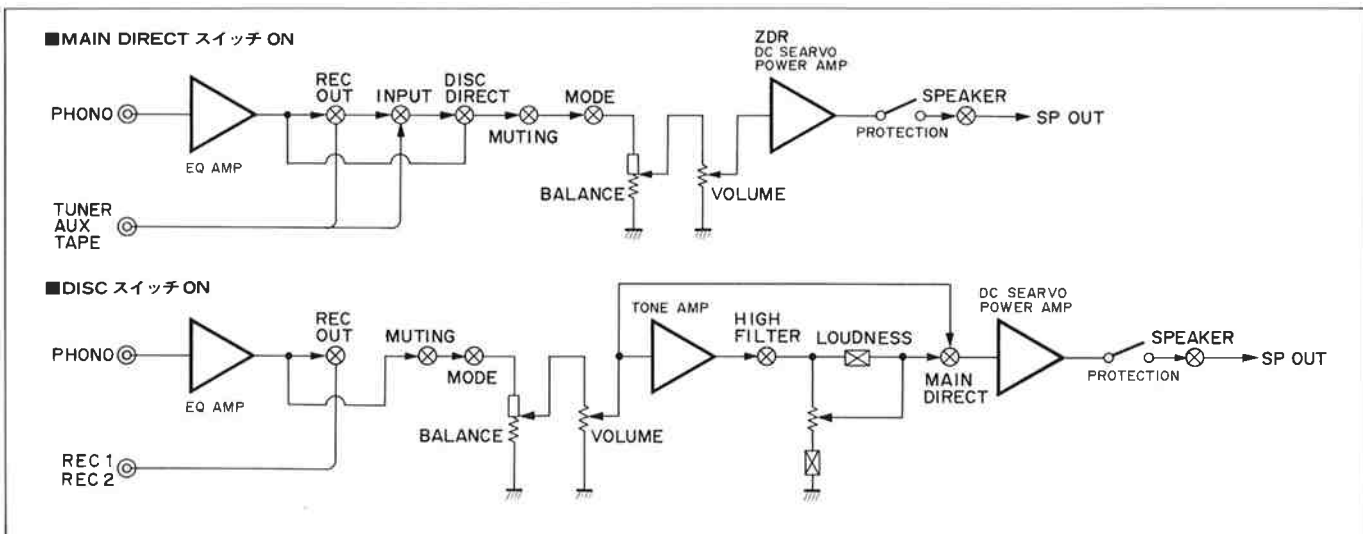
### ●DISCスイッチ

現在考えられるプログラムソースの中で最もクォリティの高いソースは、レコード(DISC)であるといえます。それゆえ、レコード再生におけるクォリティの追求は最も意味があり、またそれは、再生装置のクォリティ追求になってきます。

そういう意味で本機に採用されているヤマハ独自のDISCスイッチは、必然的必要性から生まれたものだといえます。このDISCスイッチを押すと、本機はDISC専用アンプになり、録音機能とダビング機能だけをのこし、プログラムソースをレコードのみとしてその再生に徹します。

スイッチを押したときのブロックダイヤは下のようになり、INPUTスイッチは完全にその機能を失います。

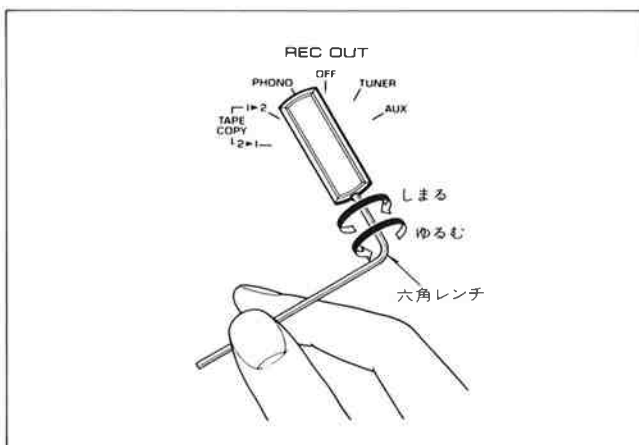
この状態ではINPUTスイッチ以外の機能は働きますが、これにMAIN DIRECTスイッチを併用することにより、信号経路はさらにシンプルになり、これこそレコードに刻まれた情報を色付けすることなく忠実に再生する理想的なカタチであるといえます。



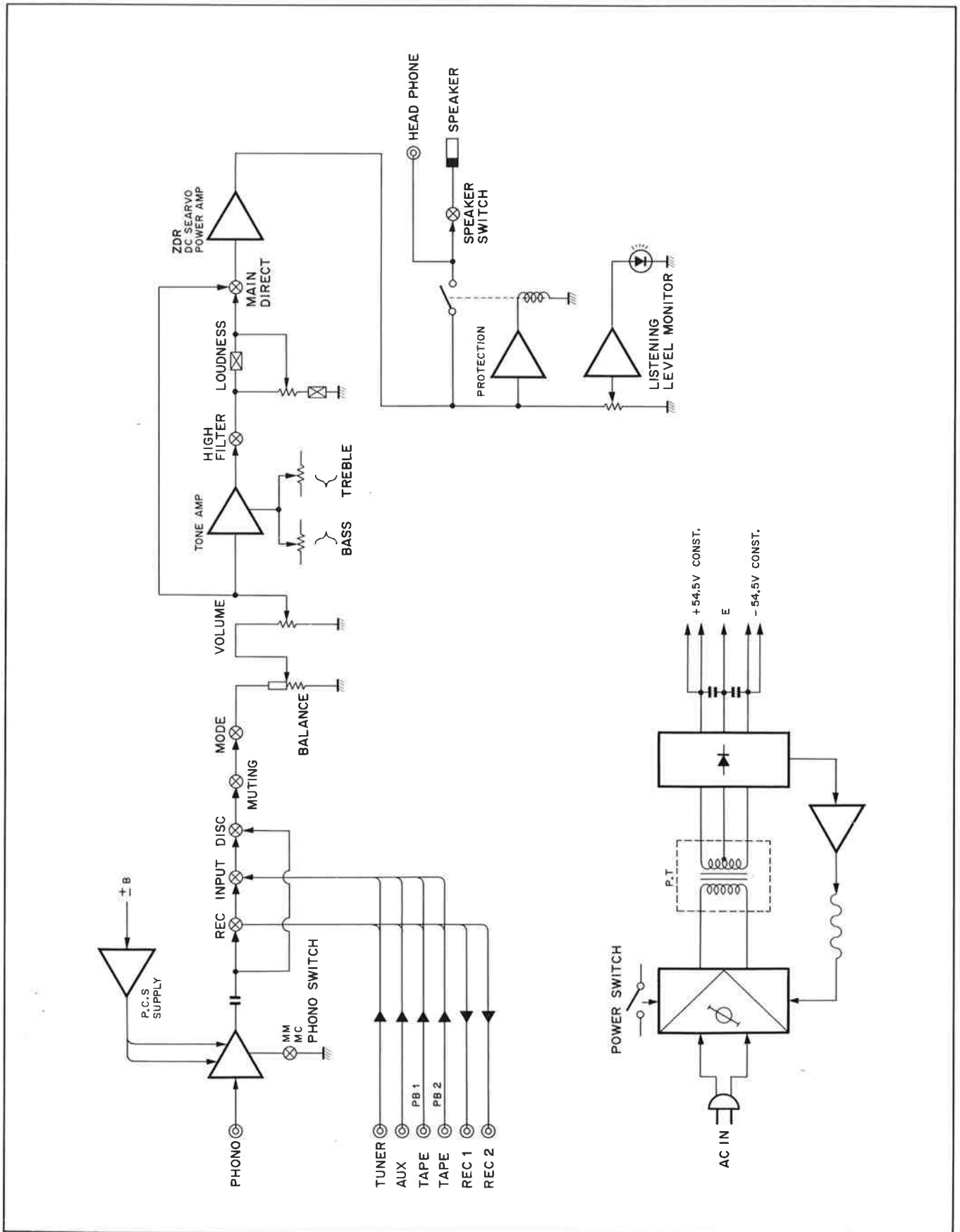
## ■付属の六角レンチについて

六角レンチは、SPEAKER, REC OUT及びINPUTのツマミの位置がずれたり、ゆるんできたときこれを固定する際に使用します。

ツマミを正しい位置に合わせ、右図のようにツマミ下部のセットスクリューをしめて固定してください。



# ブロックダイアグラム



# 参考仕様

## 定格出力

20Hz~20kHz 0.003% 8Ω 負荷	100W+100W
1kHz 0.002% 8Ω 負荷	100W+100W
パワーバンド幅(0.02% 50W/8Ω)	10Hz~100kHz
ダンピングファクター(1kHz 8Ω)	65

## 入力感度/インピーダンス

PHONO MC	160μV/100Ω
MM	2.5mV/47kΩ
AUX/TAPE/TUNER	150mV/47kΩ

## 最大許容入力(0.01% 1kHz)

PHONO MC	10mV
MM	180mV

## 出力電圧/出力インピーダンス(1kHz)

REC OUT	150mV/270Ω
---------	------------

## ヘッドホン出力/

負荷インピーダンス(0.01%)	0.81V/8Ω
	7.65V/100Ω

## 周波数特性(MAIN DIRECT ON)

AUX/TAPE/TUNER	-0.2dB(1Hz~100kHz)
----------------	--------------------

## RIAA 偏差(20Hz~20kHz RIAA)

PHONO MC	±0.3dB
MM	±0.2dB

## 全高調波歪率(20Hz~20kHz)

PHONO MC→REC OUT(5V)	0.006%
MM→REC OUT(5V)	0.003%
AUX/TAPE/TUNER→SP OUT(50W/8Ω)	0.003%

## 混変調歪率(60Hz:7kHz=4:1, MAIN DIRECT ON)

AUX/TAPE/TUNER 定格出力/8Ω	0.002%
1W/8Ω	0.01%

## SN比(IHF A ネットワーク, 入力ショート)

PHONO MC(S=250μV)	70dB
MM	86dB
AUX/TAPE/TUNER(MAIN DIRECT ON)	106dB

## 入力換算雑音(IHF A ネットワーク)

PHONO MC	-142dBV
MM	-138dBV

## 残留ノイズ(IHF A ネットワーク,

MAIN DIRECT ON) .....65μV

## チャンネルセパレーション(1kHz)

PHONO MC(Vol.-30dB ショート)	70dB
MM(Vol.-30dB ショート)	70dB
AUX/TAPE(Vol.-30dB 5.1kΩ)	70dB

## トーンコントロール

BASS	±10dB(20Hz)
TREBLE	±10dB(20kHz)

## リスニングレベルモニター

0.2W~150W(8Ω)  
(スライド VR により, 各設定ポイントのピークレベルで LED 点灯)

## フィルター特性

ハイフィルター.....10kHz, 12dB/oct

## コンティニューアスラウドネスコントロール

最大補正量.....20dB(1kHz)

## オーディオミューティング

.....-20dB

## ゲイントラッキングエラー(0~-60dB)

.....2dB

## 使用半導体数

トランジスター; 48

IC; 6

FET; 6

LED; 1

DIODE; 68

## 定格電源電圧・周波数

.....AC 100V, 50/60Hz

## 定格消費電力

.....175W

## AC アウトレット

SWITCHED .....100Wmax, total

UNSWITCHED .....200Wmax

## 外形寸法(W×H×D)

.....435×112×365mm

## 重量

.....9.1kg

## 付属品

.....六角レンチ(1.5φ)1本

※規格及び外観は改良のため予告なく変更されることが

ございます。

# 故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切るか、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店又は最寄りの日本楽器ステレオサービス係宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	上記接続が確実にされAC 100Vが出ていてもONしない。	日本楽器のサービスネットワークに相談してください。
INPUTスイッチを切り換えても再生音が全く出ない。	SPEAKERスイッチが正しくセットされていない。	正しい位置にセットしてください。
	VOLUMEツマミが絞られている。	VOLUMEツマミを右に回してください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	出力コードの接続が不完全。	出力コードの接続を確認してください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	DISCスイッチが点灯している。	DISCスイッチが点灯しているとINPUTスイッチは働きません。DISCスイッチをOFFにしてください。
	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続、または動作を確認してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が定位しない。	BALANCEツマミがLかRのどちらかにずれている。	BALANCEツマミを正しく調整してください。
	アンプとスピーカーの位相（+、-）が合っていない。	アンプの位相（+、-）を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき、「ブーン」というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	プレーヤーのアース線をGND端子に接続していない。	アース線をリアパネルGND端子に接続してください。
業務無線・アマチュア無線等の通信内容、放送が再生音に混入する。	近所に送信所・業務無線局・アマチュア無線局等がある。	日本楽器のサービスネットワークに相談してください。
		電波を発射している所に相談してください。
レコード再生時、VOLUMEをあげると「ワーン」という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして「ハウリング」をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。特に部屋のコーナーは避けてください。
MCカートリッジの音が小さい。	PHONOスイッチがMMの状態になっている。	PHONOスイッチをMCにセットしてください。
BASS, TREBLE, LOUDNESS, HIGH FILTERが働かない。	MAIN DIRECTスイッチが点灯している。	MAIN DIRECTスイッチが点灯していると左記の4つの機能は働きません。MAIN DIRECTスイッチをOFFにしてください。
録音できない。	REC OUTスイッチがOFF位置になっている。	REC OUTスイッチを録音したいプログラムソースに合わせて切り換えてください。

# サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器ステレオサービス係へお願い致します。

■ステレオの保証は、保証書によりご購入日から満1カ年です。尚、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。(日本国内のみ有効です。)

■保証期間の1カ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービスネットワーク(ステレオサービス係)宛お問い合わせください。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(前ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただく場合もございますのでご注意ください。)

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけしないですみます。)

## ■日本楽器ステレオサービス係への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、または最寄りの日本楽器ステレオサービス係へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄ステレオサービス係または日本楽器ステレオサービス係の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)  
※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■サービスのお約束

昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

## ■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所	〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL. 011(512)6115
仙台事業所	〒980	仙台市1番町2丁目6-5 TEL. 0222(23)3101
東京事業所	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL. 03(255)2241
浜松営業所	〒432	浜松市東伊場2丁目14-1 (ヤマハエレクトーン・ステレオ・サービスセンター内) TEL. 0534(56)9211
名古屋事業所	〒460	名古屋市中区栄1-7-33(サカエセンタービル5F) TEL. 052(201)1551
北陸出張所	〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL. 0762(43)6111
大阪事業所	〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL. 06(445)6421
岡山出張所	〒700	岡山市本町6-30(ラジビル8F) TEL. 0862(32)3802
四国出張所	〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL. 0878(33)2233
広島営業所	〒731-01	広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL. 08287(4)3787
九州事業所	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2151

■日本楽器製造株式会社

- 本社・工場 〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. 0534(65)1111  
東京支店 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/ノパールビル内  
TEL. 03(572)3111  
銀座店 〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL. 03(572)3131  
横浜支店 〒231 横浜市中区本町6-61-1 TEL. 045(212)3111  
横浜店 〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL. 045(311)1201  
千葉支店 〒280 千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内  
TEL. 0472(47)6611  
関東支店 〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内  
TEL. 0273(27)3366  
大阪支店 〒564 吹田市新芦屋下1-16 TEL. 06(877)5151  
心斎橋店 〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL. 06(211)8331  
神戸支店 〒651 神戸市中央区浜辺通り6丁目1の36  
TEL. 078(232)1111  
神戸店 〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL. 078(321)1191  
四国支店 〒760 高松市西宝町2丁目6-44 TEL. 0878(33)2233  
名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052(201)5141  
北陸支店 〒921 金沢市泉本町7-7 TEL. 0762(43)6111  
九州支店 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2151  
小倉店 〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL. 093(531)4331  
北海道支店 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター  
TEL. 011(512)6111  
仙台支店 〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL. 0222(95)6111  
広島支店 〒730 広島市紙屋町1-1-18 TEL. 0822(48)4511  
浜松支店 〒430 浜松市田町32 TEL. 0534(54)4115  
浜松店 〒430 浜松市鍛冶町122 TEL. 0534(54)4111

